

### 3. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備(貯水容量の確保)

- 琵琶湖の水位を-1.5m以下にしないようにするためには、次の貯水容量が必要

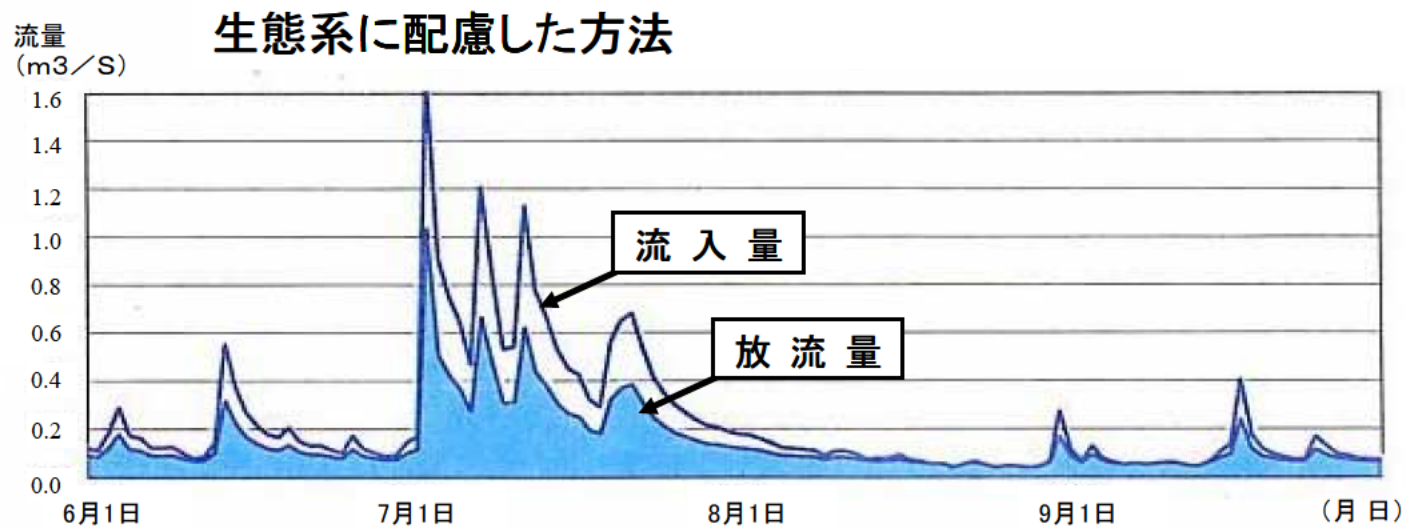
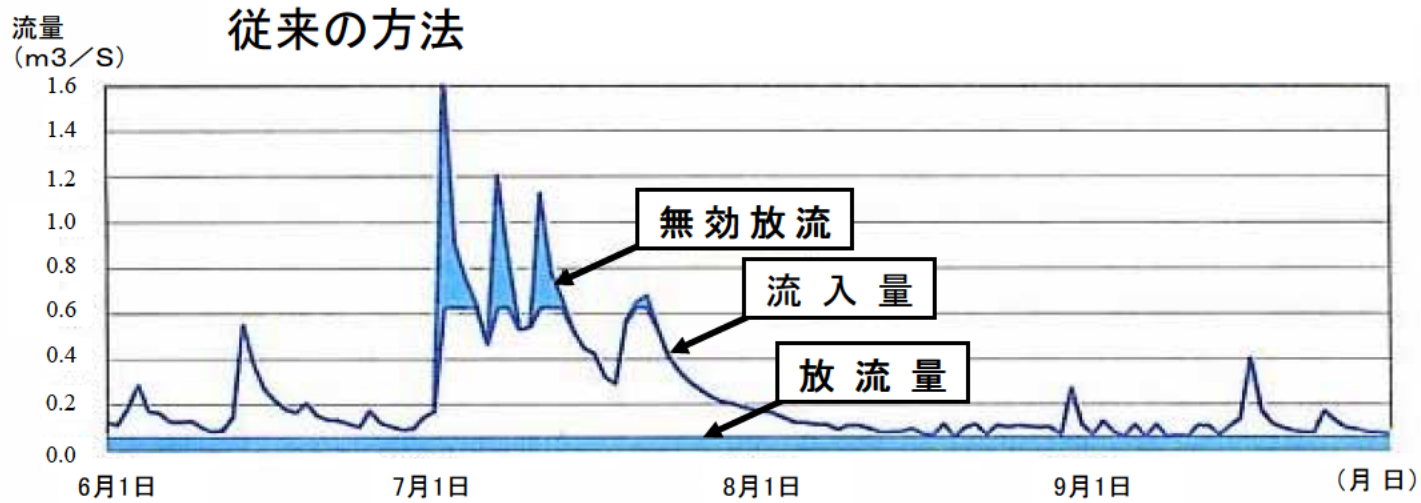
必要な貯水容量一覧表

対象洪水	単位: 百万m <sup>3</sup>			
	将来の水需要		現時点の水利用	
	節水無し	節水有り	節水無し	節水有り
既往最大(S14~16年)	1,006	234	572	91
戦後最大(S5~354年)	415	—	152	—
近年10ヶ年の第一位(H6年)	233	40	33	—

## 第4節 出来るだけ自然のまま流す (環境用水対応)

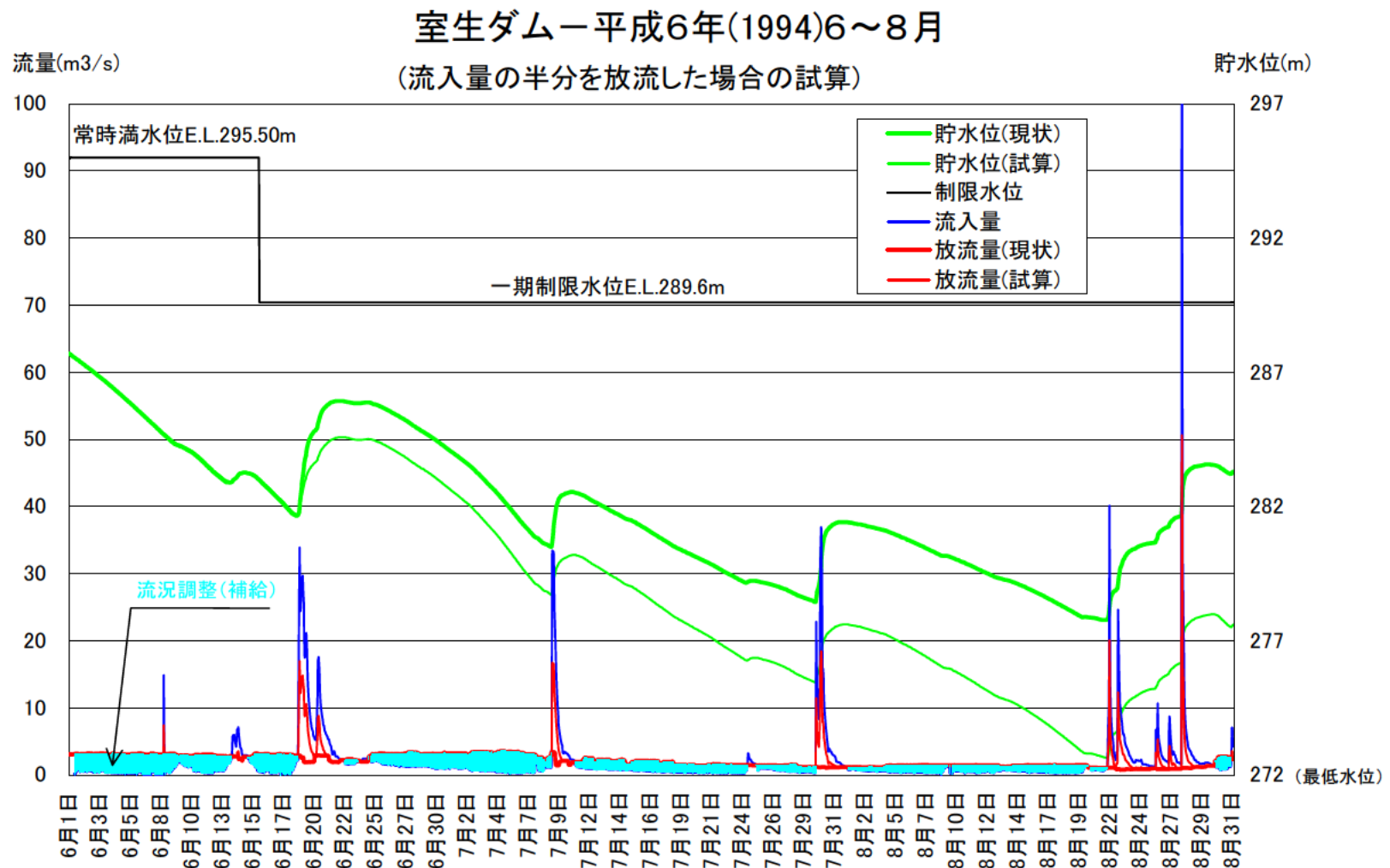
1. 生態系に配慮した取水の事例
2. 室生ダムでの検討
3. 利水安全度(確保水量)への影響

# 1. 生態系に配慮した取水の事例



## 2. 室生ダムでの検討

- 中小洪水の半分は放流する(流入量の半分は貯留する)



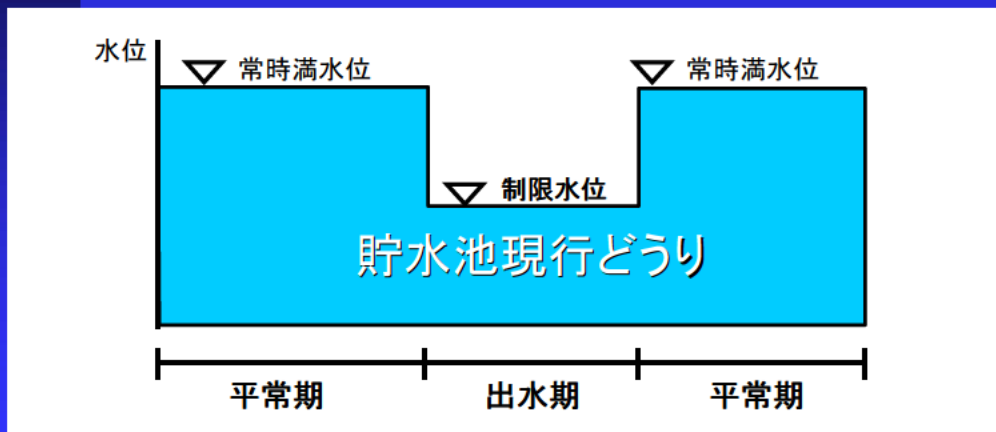
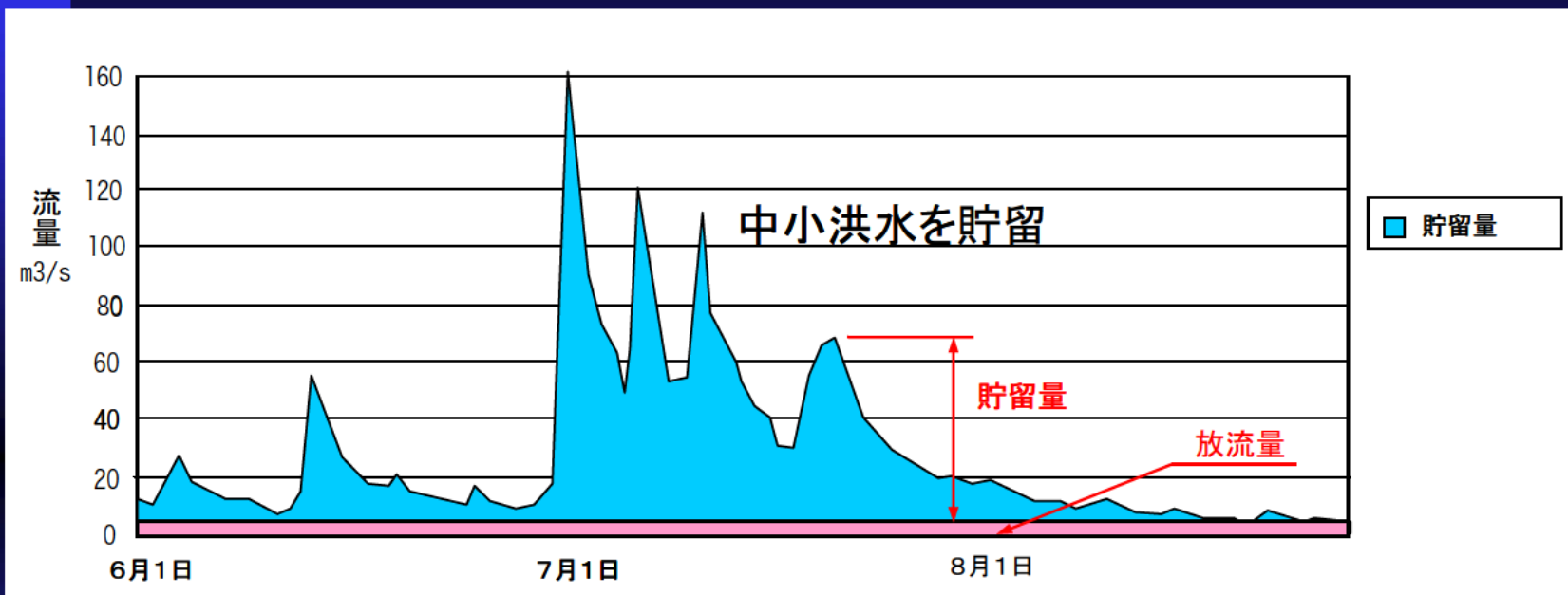
### 3. 利水安全度(確保水量)への影響

#### ■ 既存施設活用のシミュレーション

- ・ ケース1: 中小洪水の半分を貯留、半分は放流
- ・ ケース2: 中小洪水の3/4を貯留、1/4は放流

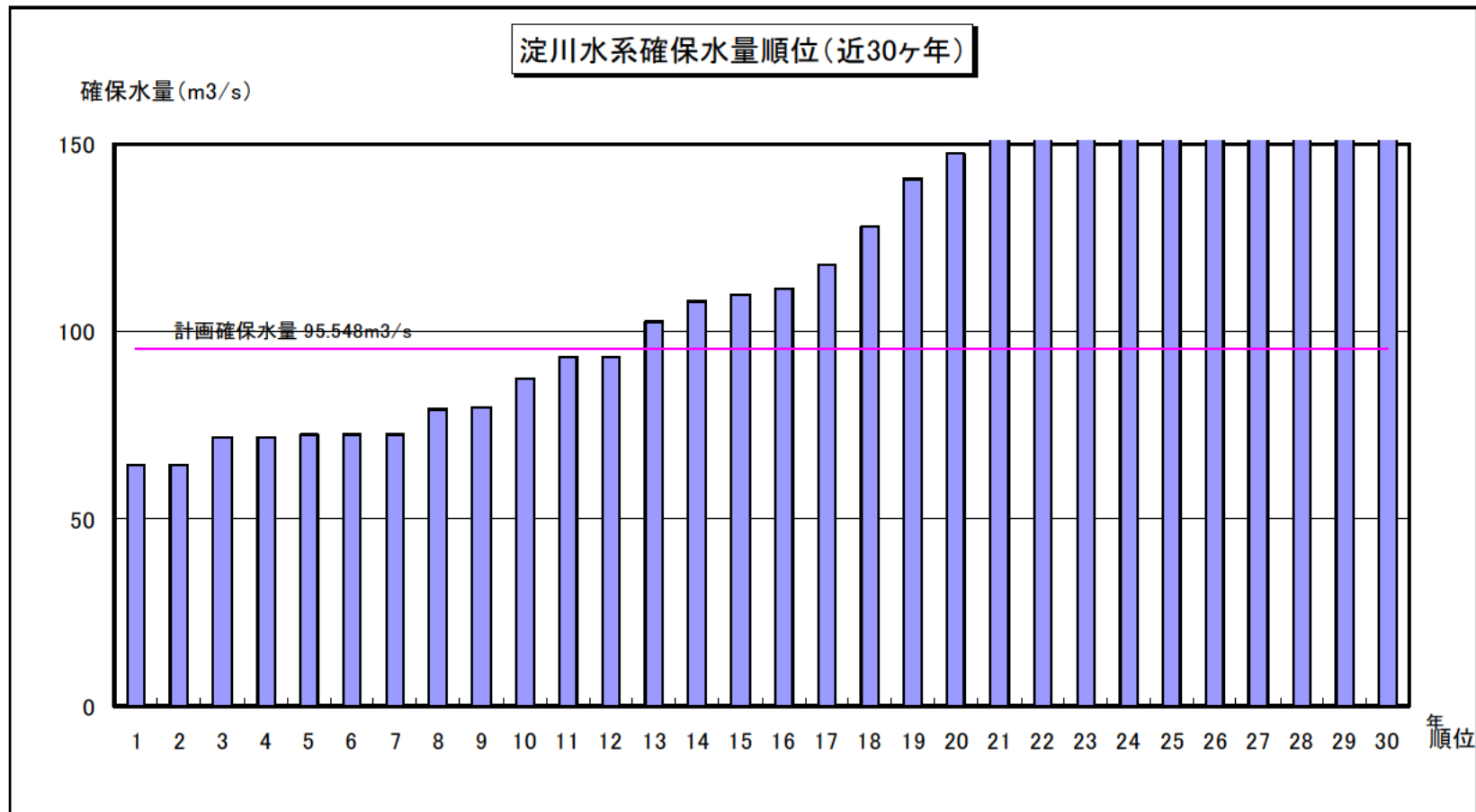
### 3. 利水安全度(確保水量)への影響

#### ● 現状



### 3. 利水安全度(確保水量)への影響

#### 近年30年間の確保可能量(現状)



淀川水系現行施設の確保可能量順位(昭和44年~平成10年)